

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
<b>1. 理念と共有</b>				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	身近な人々や豊かな自然とたくさんふれあって ①「よるこび」と「はりあい」にあふれた毎日を過ごしています。 ②「生きる力」をいただいたりさし上げたりしながら感謝しあって暮らしています。	○	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関に理念を大きく掲げ常に目に付くようにし、職員と実践に向け努力している。	○	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	月一回の家族会やご近所お茶飲み会を実施し、家族や地域みなさんに理念を理解していただけるよう努力している。 ふきんとだよりを配布している。	○	・家族会、お茶飲み会の実施 ・ふきんとだよりの配布
<b>2. 地域との支えあい</b>				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	毎月27日の「ご近所お茶のみ会」の実践が積み重なり、ご近所みなさんに好意的に交流していただいている。	○	広いスペースをとってサロンのようにできるとともにさらに心の交流が深まるようにしたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	祭礼の朝、子ども御輿が立ち寄ってくれたり、保育園の子供たちがイベントの折り、顔を出してくれる。また、高校生のボランティアが訪ねてくれる。	○	事業所として地域に協力できる形を積極的に考えていきたい。

グループホームふきんと

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6 ○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ご近所のお茶のみ会に声をかけ大勢の人の参加を試みている。	○	お茶呑み会の内容に魅力を感じてもらえるような工夫をしている。 ・集まりのテーマソング ・外周りのボランティアの催しを依頼
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価は意義深く受け止めている。年々進歩した改善運営ができていると思っている。	○	自己流に止まらないよう見聞を広めるべく研修のために職員一丸となって努力している。
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会議の委員は協力的でありがたい。	○	具体的な変化や動きはないができる限りホームを理解していただけるよい機会だと思っている。
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	年度総会の折りは保険者である利用者の市町村へも出席を呼びかけている。	○	時折の訪問をいただき現状を理解してもらっている。
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度の理解のため研修に参加し職員に復命している。	○	今後具体例を盛り込んだ内容の研修に参加していきたい。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会等々に参加し職場に帰り話し合いの中で再確認しあってきた。	○	時々研修してきたことの再確認をしていくことが大切だと思っている。

グループホームふきんと

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>4. 理念を実践するための体制</b>				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明は十分していて納得を得ていると思っている。	○	家族の不安、疑問には十分聞いて答えていきたい。どんなことにも心を開いてもらえる関係を保ちたい。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	遠慮があって、希望や意見を言えないような場面もある。ちょっとしたつぶやきをとらえ、職員間で大切にして話し合い、希望に添うように努力している。	○	和やかな環境作り、明るい環境作り、優しい環境作りに心がけたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月一回の家族会の折りやふきんとだよりを唯一の報告時と考えている。電話での連絡もある。	○	家族会の実施や工夫をしていきたい。温泉行き、会食会など ・ふきんとだよりの発行
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族のみなさまには苦情など遠慮なく言っていただくよう伝えてはいる。ちょっとした談話の中でくみ取りたい。	○	いつも真摯に受け止め運営に生かしたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝のミーティング、職員会議また、談笑の折り意見交換を大切に考え、少しでもよくなるよう反映させている。	○	大切な意見の決定は職員会として、全員の統一見解を願ひ実施している。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	十分にやっていると思う。	○	介護をまず優先していきたい。

グループホームふきんと

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	○	<p>短い間でも関わりを持ち合った人同士、別れもつらいが利用者も年を重ねてこられた大人なので分かり合えていると思っている。</p>
<p><b>5. 人材の育成と支援</b></p>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	○	<p>経営上資金に余裕ができてきたら、遠方の研修にもいってもらいたいと考えている。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	○	<p>職員数が足りないとき相互に助け合うと行った交換勤務がとれないか検討したい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	○	<p>仲良く思いやりを持って気持ちよく働ける職場をモットーに取り組んでいきたいと考えている。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	○	<p>資格手当を付ける方向で考えている。</p>

グループホームふきんと

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人のこれまでの生活経験が聞ける雰囲気作りをし、少しずつはなしてもらいながら職員やほかの利用者になじんでいく努力をした。	○  過去の経歴や出来事など家族からの情報をつぶさに聞き出し、はなすきっかけづくりに努めた。
24	○初期に築く家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の困っていたこと、不安なこと、要望などを聞いたり書き込んでいただいた。	○  家族と利用者との暖かなつながりを感じ取る努力と家族への思いやりを持ち続けることに努力していききたい。
25	○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応の見極めは困難なときもあったが、できる限りのサービス提供をしてみるという態勢で始めた。	○  ほかのサービス利用も考えながら家族と利用者の意向を重視している。
26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	まず一人の人格者という尊敬の気持ちを忘れずに日々の生活の中で関わっている。	○  相手に求めるのではなく職員自らが自分の心を開いて接する努力をしたい。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の笑顔に喜び「ありがとう」を互いに言い合う家族の暮らしをしているように思う。	○  人の痛みを感じ取り喜びをともに喜ぶ仲間でありたい。

グループホームふきんと

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ホームでの出来事を家族に伝えそのときの喜びを共有している。今まで思いもかけなかった姿を知ることによって家族の利用者への思いが優しく深まった。	○	家族が離れて暮らすことで見えなかった優しさ、すばらしさを再確認するようにしていきたい。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	特に親子の絆は本来深いもの、それをさらに分かり合うような関わりをしている。	○	離れているとあいたいと行った感情の表現は見えなくても家族本来のぬくもりを感じあえるような家族会にしたい。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚、兄弟、身内の来訪を特にお願いしている。家族会にもきてもらっている。	○	今後も身内への呼びかけをしていきたい。
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日常生活の中で利用者同士の温かな思いやりを感じる場面をよく見る。職員も利用者も声をかけてくれるのを待っているし、毎日どの人とも声を掛け合うようにしている。	○	笑顔を見たいという思いで職員を始め、皆が笑えるホームであるよう努めている。
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	かつていた利用者は、皆の心に残っていてよく思いう話をする。家族の方とは消息を確かめ合うくらいである。	○	悲しみも喜びも皆一緒に感じあってきた家族のようなホームなので断ち切ることはできないし関わりは持ち続けたい。

グループホームふきんと

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意志を大切にして希望に添うように努めている。	○	ゆっくりと利用者一人一人と話をし、希望を聞くことに努めたいと考えている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族からの情報を得るようにしている。	○	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	レクリエーション、行事、食事など、日常生活の中で常に現状の把握に努めている。	○	健康チェックと排便には個人個人のパターンにてらして変化を把握していきたいと考えている。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者本位の介護計画をたてている。	○	介護計画の見直しは常に心がけてやっている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎日のミーティングと、職員会で変化を発見し、それに対応した介護計画をたてている。	○	現状に即した介護の取り組みに努める。

グループホームふきんと

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、介護日誌に記録し職員はそれをみながら情報を共有し実践している。	○	記録の工夫を職員で勉強していきたいと考えている。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	支援はいつでもできるようにしている。	○	
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域のみなさんは皆協力的でふきんとのために力を惜しまずにやってくれる。	○	今後も連携を取り合っていたい。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在訪問看護サービスの実施を計画中である。	○	大いにほかのサービスを利用し生活支援をしたいと思っている。
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	ようやく関係や責任の部分がはっきりして動き出している。	○	うまく融合していきたい。



グループホームふきんと

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望する医療機関、意志に受診できるよう支援し適切な医療を受けている。	○	今後も適切な医療を受けられるように支援したい。
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	支援している。	○	今後もこれを続けていきたい。
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	専門医との相談のみである。	○	
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院の時の情報交換は特によくやっている。	○	今後とも今までのようにやっていきたい。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	今はまだ具体的に利用者ここについて話し合いはないがそのときには医師の協力がある。		以前家族が遠慮して入院させたことがあった。契約書ではっきり伝えるようにしたい。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ホームでできることできないことを見極め今後の変化に備え検討や準備を行っている。	○	具体的なマニュアルができないか検討していきたいと考えている。

グループホームふきんと

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	○	
<p><b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p>			
<p><b>1. その人らしい暮らしの支援</b></p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	○	特に気をつけていきたい。
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	○	自己決定に賛成し支援していきたい。
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	○	何よりも大切に考えていきたいと考えている。
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	○	毎日の生活に備わったものになったらよいと思う。

グループホームふきんと

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	○	<p>仕事ができるという喜びを持っていけるようにいろいろな仕事を考えていきたい。</p>
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	○	<p>行事への思い出などを聞きながら、その話の中でできた食べ物を食べるようにしていく。</p>
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	○	<p>失敗しないように、汚さないようにではなく、本人の意志を尊重した排泄支援でありたい。</p>
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	○	<p>本人にとって安全で、しかも満足のできる入浴となるよう環境、対応の面で気配りをしていきたい。</p>
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	○	<p>今後も同様に気配りをしていきたいと考えている。</p>
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	○	<p>一つのことに責任を持ってやってくれる姿を毎日見て頭が下がる。今後も声がけの中に、張り合いを感じてもらえるように支援していきたい。</p>

グループホームふきんと

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物にでたときなどほしいものは買うようにしている。	○	
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	体調や気候をみて、希望に添った外出はしているが、体力が続かなくなっている。	○	今後も数多い外出をさせてあげたい。散歩は大いにしていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族会や近所のみなさんとの集まりの日などに善光寺、花見、温泉や山、公園に行っている。	○	今後も外出支援を多くしたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやりとりの可能な利用者もいる。家族へのお便りを書いてみるのもよいと思う。	○	お便りを書くことをやってみたいと考えている。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	みなさんがよくきてくれている。	○	今後も大いにきていただけるホームでありたい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしなくてよい介護ができることを話し合っている。	○	本人の安全、ほかの利用者の安全を考えた介護を工夫していきたいと考えている。

グループホームふきんと

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアをしている。	○	今後も実践していく。
67 ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	いつどんな危険があるかということ予測しあっている。	○	職員間の研修を積んでいく。
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	はさみ、包丁など決められた場所に保管するように気配りをしている。	○	今後も特に気をつけていく。
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	今までに起きた事故（行方不明）についての反省や、他の事故についての危険を検討し、防止に努めている。 ・池に対する対策 ・転倒防止についての対策	○	事故の詳細な報告を職員とともに徹底していききたい。（報告の内容について）
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年に一度の救急法の研修をしている。	○	定期的に急変時の対応について研修をする方向で行きたい。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に二回の避難訓練を実施し、地域の人にも参加してもらっている。	○	引き続き訓練を企画、実施していく。

グループホームふきんと


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	実生活の様子をつぶさに伝えている。その中で家族の要望を聞くが、抑圧のない暮らしづくりを進めている。	○	今後も実施していく。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックを元に一日の様子を見ながら情報を共有し、対応している。	○	発見や対応の遅れには気をつけている。早めの発見、対応に心がけていく。
74	○服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の支援には確認を怠らない。	○	ミーティング時（引き継ぎ）の連絡を密にして変化に気づくよう徹底していきたい。
75	○便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分の補給、食材の工夫などを通し、便秘の予防に気をつけている。	○	排泄の習慣を崩すことなく予防に心がけたい。
76	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	実施している。	○	口腔内の清潔保持に努めたい。
77	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や栄養、水分量を、一人一人に会わせて支援している。	○	今後も栄養摂取や水分確保を支援していきたい。

グループホームふきんと

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	県の指導を元に予防し対応策を実施している。	○	今後も気を緩めることなく取り組んでいきたい。
79	○食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	使用後のまな板の消毒、石けんによる手荒い、新鮮な食材の確保に努めている。	○	今後、新鮮で安全な管理を心がけていきたい。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	民家の広い庭や、池を四季を通して眺めることができ、利用者の心を慰めてくれる。草花も美しく咲いている。	○	今後も親しみのもてる玄関周りになるよう心がけていきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地よい共用空間だと思う。	○	優しさで季節感を取り入れた花々を飾ることは職員の皆が好きである。これからもそうあるよう努める。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人の居場所があっても、皆が集まる茶の間が好きである。	○	一人一人の居場所も居心地のよいよう努めていきたい。

グループホームふきんと

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>83</p> <p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居心地のよい居室になるように配慮してきた。</p>	<p>○</p>	<p>清潔で整頓された居室になるよう配慮したい。</p>
<p>84</p> <p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>換気に努め温度調節をしている。</p>	<p>○</p>	<p>今までのようにやっていきたい。</p>
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>			
<p>85</p> <p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>安全な環境作りに注意を払っている。</p>	<p>○</p>	<p>絶えず安全を点検するようにしたい。</p>
<p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>単純化した環境作りが自立へと向かうことを願っている。</p>	<p>○</p>	
<p>87</p> <p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>庭にでてお茶を飲んだりして楽しく暮らせるように使っている。</p>	<p>○</p>	<p>今まで通りにやっていきたい。</p>

(  部分は外部評価との共通評価項目です )



V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

グループホームふきんと

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・安心して静かに生活のできる場所であると自負している。
- ・日々、四季折々に自然を体感してもらえるように職員全体で工夫、努力している。(周辺の田、畑、山、池、時には社会見学をかねて大型デパートで買い物、食事など)
- ・利用者の方々が安心して楽しい気持ちで暮らせるよう心がける。ご近所、地域の方とのつながりを大切にする。
- ・利用者と職員がお互いに助け合っている。